

2019年度 事業報告

2019年度は施設入居サービス事業の安定体制の確立、在宅サービス事業における利用価値の向上、更には元気な高齢者への健康長寿支援サービスの発掘などを柱に取り組みを行った。また、高齢者生活支援ハウス増床の完了、定年延長の改定など次年度に向けて前進することができた。

〈顧客の視点〉

1. 地域、利用者のニーズに柔軟に対応することができる。

在宅生活継続のための支援強化として、高齢者支援ハウスの増床の取組みを行い、必要な手続きを経て既存居室8室に加え新たに従来型特養部分に8室の増床を行い、定員を19名として受け入れ可能な状態となった。

特養入居ニーズへの継続対応については、現在44床を維持しつつ、新規入居の受入についても迅速に対応実施できた。

在宅サービス、特に認知症デイの専門性の強化については未達の部分が多く次年度以降も継続して取り組む。

〈業務プロセスの視点〉

2. 地域資源との連携を深め、開かれた施設サービスが提供できる。

1号館空スペースの有効活用については、NPO法人、地元商店との地域の中での連携は計画通り実施でき、利用者に喜んでいただくことができた。また、高齢者生活支援ハウスの転用後も地域との連携など有効活用について積極的に取り組みを行っていきたい。

広報活動の充実については、年4回発行の施設広報紙の内容について、地域、利用者に分かりやすい情報発信ツールとなるよう、内容の充実を図った。また、ホームページの充実については未達の部分が多いため、次年度も引き続き継続課題とする。

リスク管理及び職員教育は計画通り実施できた。また、新たな脅威として新型コロナウイルスや従来の感染症対策にも力を入れBCPとあわせ、必要資材の備蓄等について次年度以降も着実に進めていきたい。

〈職員の学習と成長の視点〉

3. 全職員が専門性、組織性、人間性を高め、自分らしく能力が発揮できる。

介護福祉士等、資格取得の体制強化については、職員への意識付けの強化など取り組みを行い、1名が介護福祉士資格を取得する喜ばしい結果となった。

職員の働き方や、満足度向上の取組みについては、年度内に定年制度の検討を行い、次年度から65歳定年の新たな制度をスタートさせ高齢者でも意欲がある職員が長く働ける制度づくりができた。

〈財務の視点〉

4. 最適事業規模による持続可能な安定した経営基盤が確立できる。

財務的数値は以下のとおりである。

經常増減差額は計画数値まで届かなかったが、僅かではあるもののプラスに転じることが出来

た。

その中において、在宅サービス事業における利用者数が減少している。

経営基盤の安定化に向けて、在宅サービスの在り方について次年度への課題として持ち越された。

労働生産性の向上

①給与換算職員一人当たりサービス活動収益前年度比1%以上の計画に対し、3.4%増の実績。(職員一人当たりサービス活動収益、前年度6,530千円、今年度6,753千円)

②在宅サービスにおける給与換算職員一人当たり利用者延件数前年度比1%以上の計画に対し、前年度比13.5%減の実績。(在宅職員一人当たり利用者延数、前年度1,077人、今年度932人)

法人経常増減差額率の向上

①法人経常増減差額率1%以上の計画に対し0.1%の実績。(経常増減差額575千円)

長期人的資源に見合う事業規模の検討

①職員離職率7%以下の計画に対し

5.5%の実績(正規職員数、期首55名、退職者 3名)

2019年度 利用実績表

	特養	ショート
平均介護度	3.7	2.5
1日平均利用者数	43.7人	18.7人
利用延べ数	16,009人	6,827人
稼働率	99.4%	93.5%
新規利用者数	13人	42人

	デイ一般	デイ認知	元気はつらつ	訪問介護
平均介護度	1.5	2.1	—	1.3
1日平均利用者数	16.8人	4.1人	10.9人	6.2人
利用者延べ数	5,158人	1,247人	1,001人	2,287人
稼働率	67.1%	50.6%	—	—
新規利用者数	28人	10人	2人	20人

	居宅支援	高福センター	いもほりの家
平均介護度	—	1.1	2.2
1日平均利用者数	107人	6.6人	15.4人
利用者延べ数	1,284	2,413人	5,627人
稼働率	—	82.5%	70.3%
新規利用者数	50人	1人	9人

※元気はつらつ教室:延べ利用者数は稼働日数92日(水・金)を基に算出

※いもほりの家:稼働率は登録定員29名に対し年間平均登録者数20.4人を基に算出

※居宅支援:平均利用者数は1ヶ月の給付管理対象者の年間平均を掲載